

会社概要

商号 林兼産業株式会社
 本店所在地 〒750-8608
 山口県下関市大和町二丁目4番8号
 TEL (083) 266-0210 FAX (083) 266-1266
 主要製品 食肉加工品(キリシマハム)・肉類(霧島黒豚)
 魚肉ハム・ソーセージ
 機能性食品(エラスチン・ソフミート)
 養魚用飼料

役員一覧

2021年9月30日現在

取締役社長 (代表取締役)	中 部 哲 二
専務取締役 機能・食品事業部長	岡 本 伸 孝
常務取締役 飼料事業部長	三 代 健 造
取締役 (社外・非常勤)	岩 村 修 二
取締役 (社外・非常勤)	牟 田 実 一
取締役 (社外・非常勤)	山 尾 哲 之
取締役 総務部担当 兼人事部担当 兼品質保証部担当	高 田 啓 吾
取締役 経営企画室長 兼経理部担当	宮 崎 一 郎
取締役 機能・食品事業部 副事業部長 兼食品マーケティング部長	平 野 育 一
常任監査役 (社外・常勤)	山 本 昌 信
監査役 (非常勤)	川 崎 哲 彦
監査役 (社外・非常勤)	桑 原 望 洋
監査役 (社外・非常勤)	三 田 村 知 尋

○株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 特別口座の口座管理機関 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 連絡先 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)
 公告の方法 電子公告により行う



この報告書は、FSC®認証紙と、
環境に優しい植物油インキを使用
して印刷しています。

Today's Special

この冬イチオシ!

お歳暮ギフト

ジューシー仕上げのロースト ビーフ&ローストポークセット



赤身のもも肉をオープンで焼き、低温調理した霧島黒豚ローストポークと、牛の希少部位トライチップ(トモサンカク)をオープンで焼いた霧島工房ローストビーフのセット。どちらもジューシーに仕上がっています。



当社ホームページでIR情報等がご覧いただけます。

<http://www.hayashikane.co.jp/>

林兼産業

検索

証券コード | 2286

With you

第83期

中間期

株主通信 2021年4月1日～2021年9月30日



社長から皆さまへ

株主の皆さまに第83期中間株主通信をお手もとにお届け申しあげるとともに、日ごろのご愛顧とご支援に厚く御礼申しあげます。

当中間期の当社グループの売上高は、豚肉および魚肉ねり製品の販売数量が減少したことにより、202億4百万円(前年同期は223億73百万円)となりました。損益面におきましては、営業利益は5億58百万円(前年同期比11.1%減少)、経常利益は6億70百万円(前年同期比6.9%減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に計上した特別利益(固定資産売却益)の反動により4億12百万円(前年同期比58.9%減少)となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これによる売上高の減少額は9億34百万円でした。

このような状況のなか、当社グループは、昨年4月に策定した「新中期経営計画<挑戦>challenge2022」(2021年3月期～2022年3月期)を実行中です。本計画の基本方針である「成長投資の推進」「事業ポートフォリオの検討」「財務健全性の強化」「コーポレートガバナンスの強化」に沿った諸施策により、経営資源の選択と集中による構造改革を進めて収益基盤の改善を図るとともに、安定的な利益確保に向けた構造強化を図り、持続的な事業発展を目指しております。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

取締役社長
中部 哲二



※収益認識に関する会計基準等を適用したことにより、売上高の前年同期比(%)を記載しておりません。

「新中期経営計画<挑戦>challenge2022」の詳細につきましては、当社ホームページ「中期経営計画」をご参照ください。
[\[http://www.hayashikane.co.jp/ir/managementplan/\]](http://www.hayashikane.co.jp/ir/managementplan/)



セグメント概況

[機能・食品事業]



機能性食品は、機能性食品素材および高齢者向けソフト食ソフミートの販売数量が増加いたしました。

魚肉ねり製品は、前年の巣ごもり需要の反動により、販売数量が減少いたしました。

ハム・ソーセージ等食肉加工品は、長引く外食需要の低迷により、販売数量が減少いたしました。

肉類は、豚肉の採算性を重視した取引きに努めたことにより、販売数量が減少いたしました。

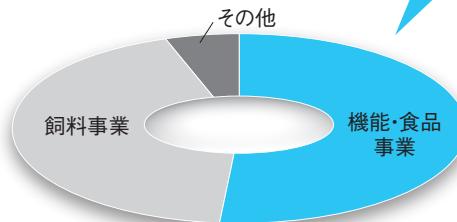
調理食品は、前年の巣ごもり需要の反動により、販売数量が減少いたしました。

なお、収益認識に関する会計基準等を適用したことによる売上高の減少額は、4億38百万円でした。

これらにより、売上高は104億1百万円(前年同期は120億70百万円)となり、前期を下回る結果となりました。

セグメント別売上高

104億1百万円



[飼料事業]



養魚用飼料は、養殖魚の減少により国内販売が低調に推移いたしました。輸出は好調に推移いたしました。

水産物は、取り扱い量が減少いたしました。

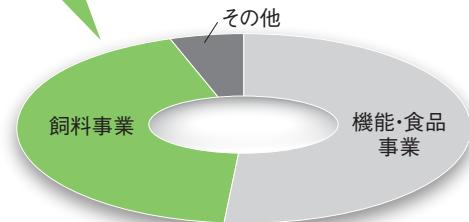
畜産用飼料は、価格改定を行ったことにより販売単価が上昇いたしました。

なお、収益認識に関する会計基準等を適用したことによる売上高の減少額は、4億96百万円でした。

これらにより、売上高は87億87百万円(前年同期は91億58百万円)となり、前期を下回る結果となりました。

セグメント別売上高

87億87百万円



連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2021年9月30日)
資産の部	
流動資産	15,925
固定資産	15,184
有形固定資産	10,514
無形固定資産	16
投資その他の資産	4,653
資産合計	31,109
負債の部	
流動負債	13,859
固定負債	6,685
負債合計	20,544
純資産の部	
株主資本	8,573
資本金	3,415
資本剰余金	6
利益剰余金	5,230
自己株式	△78
その他の包括利益累計額	1,043
その他有価証券評価差額金	1,019
繰延ヘッジ損益	0
退職給付に係る調整累計額	23
非支配株主持分	947
純資産合計	10,564
負債純資産合計	31,109

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	20,204
売上原価	17,087
売上総利益	3,116
販売費及び一般管理費	2,558
営業利益	558
営業外収益	182
営業外費用	70
経常利益	670
特別利益	—
特別損失	3
税金等調整前四半期純利益	667
法人税、住民税及び事業税	231
法人税等調整額	△26
四半期純利益	462
非支配株主に帰属する四半期純利益	50
親会社株主に帰属する四半期純利益	412

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,704
投資活動によるキャッシュ・フロー	△140
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,133
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△711
現金及び現金同等物の期首残高	1,976
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,264

○連結売上高



○連結経常利益



○親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

